

助成事業完了報告書

宛先: 日本財団 会長 様

報告日付: 2009年4月30日

事業ID: 2006536903

事業名: 三河湾における自立的継続的な
海の環境学習システムの確立

団体名: 三河湾環境チャレンジ実行委員会

代表者名: 委員長 大塚耕司

TEL: 0533 - 66 - 1162

FAX: 0533 - 66 - 1190

事業完了日: 2009年 3月30日

事業費総額 1,713,252 円

助成金額 1,500,000 円

事業内容: (「何を、いつ、どこで、どのように」実施したのかを具体的に記入して下さい。)

1. 三河湾環境チャレンジ実行委員会開催

(1) 開催日 : 2008年5月13日、2009年3月30日

(2) 場 所 : 蒲郡市役所

(3) 参加者 : 三河湾環境チャレンジ実行委員(別添名簿参照)

(4) 内 容 : 各小学校の思いや昨年度の実績を踏まえた今年度の方向性の検討(最重要: 総合学習の一環として、「地域」の海を学ぶ。機械に頼らず児童の五感で興味を引く形をしていく)。

活動の検証(指導者の数や学習方法など)。教師としての活動の感想(学習へ取り入れるために)。大学生による海の環境学習ワークシート作成の報告。

2. 小学校における海の環境学習の支援

(1) 実施日 : 2008年5月20日、7月16日

2008年6月3日、7月4日

2008年6月4日、7月3日

2008年6月6日、7月17日

2008年9月12日

(2) 場 所 : 西浦小学校及びくじ港

三谷小学校および竹島海岸
竹島小学校及び竹島海岸
大塚小学校及び大塚海浜緑地及び大塚海岸
佐久島海岸

- (3) 参加者 : 西浦小学校4年生53名 教員4名
三谷小学校5年生64名 教員4名
竹島小学校5年生46名 教員4名
大塚小学校5年生55名 教員3名
蒲郡西部小学校全学年103名 教員12名
- (4) 指導者 : 三河湾環境チャレンジ実行委員およびスタッフ
愛知県水産試験場職員、竹島水族館学芸員・飼育員、生命の海科学館職員、
三谷水産高校職員及び生徒、NPOシーブリーズ三河湾、総合科学株式会社、
蒲郡市環境課職員、蒲郡市企画広報課職員
- (5) 内 容 : 1. 座学「海にはどんなやつがいるの？」
…海の生き物について解説し、フィールドワークでの注意点を知らせる。
2. 座学「海に関するクイズ」
…海全般に関するクイズを行い、海に関する視野を広げる。
3. フィールドワーク1回目「生物に触れる」…生物採取を通して海に関心を持
ってもらふことを目的とした。採取した生物で「マイ図鑑」を作成。
4. フィールドワーク2回目「興味をより深く」…1回目の活動で、海に関する興
味を持ったものをより深く探ってみた。赤潮、貝、水質・ごみ、カニ、イソギン
チャク・エビ、魚の6班に分かれて、生物を採取したり、パックテストや透視
度計で水質を見たり、アサリの浄化作用を見たりした。
5. の蒲郡西部小学校の活動について、全学年の親子を対象に実施し、海
辺の生き物についての理解を深めた。

3. 海的环境学習会の開催

- (1) 実施日 : 2008年8月2日
- (2) 場 所 : ホテル竹島、愛知県水産試験場および竹島海岸
- (3) 参加者 : 一般公募市民の親子26組69人
- (4) 指導者 : 三河湾環境チャレンジ実行委員およびスタッフ
愛知県水産試験場職員、竹島水族館学芸員・飼育員、生命の海科学館職員、
三谷水産高校職員及び生徒、愛知教育大学准教授および学生、大阪府立大学
教授及び学生、NPOシーブリーズ三河湾、総合科学株式会社、蒲郡市環境課
職員、蒲郡市企画広報課職員
- (5) 内 容 : 午前中に座学「考えてみよう、わたしたちの三河湾」「竹島海岸・干潟の生き物」
とフィールドでの生物採取。午後から、その生物を持って、水産試験場へ行き、
マイ図鑑の作成。合い間をぬって、人工潮汐装置や貝の浄化実験など水産試
験場の施設見学。

4. 海的环境学習のためのテキスト作成

- (1) 題 名 : 「海的环境学習マニュアル読本」
- (2) 規 格 : クリヤーブック1冊 A4版カラー54頁 250部
- (3) 内 容 : 海的环境学習を行うにあたっての指導者向けマニュアル
- (4) 作成者 : 三河湾環境チャレンジ実行委員会委員
- (5) 作成完了日 : 2009年3月30日

事業目標の達成状況: (目標の達成状況、事業成果、成功/失敗の要因を自己評価して下さい。)

小学校における海的环境学習支援について、新規に地元のNPO団体や海に関連する複合施設である蒲郡海洋開発株式会社などの協力を得ることができ、活動の幅が広がってきている。

蒲郡西部小学校においては、特に保護者とのつながりを大事にしており、親子で海的环境を知るよい機会となった。他の学校においても、保護者の参加が増えてきており、関心の高さが伺える。

当初の予定であった市外との連携については、市外団体の日程調整がうまくいかず、実施までにいたらなかった。海の活動については、大潮の日が好ましく、海のイベントが集中することから、年度当初から他団体との調整を行う必要がある。

夏休みの親子海辺の環境学習会については、43組120名の応募があったが、安全面から抽選を行い、26組69名の参加となった。参加者の熱意も強く、関心の高さを伺うことができた。

年度末に協力機関でもある生命の海科学館において、成果展示会を開催した。各小学校のさまざまな成果が展示され、期間中は多くの親子で賑わい、学校で行われた海に関する活動を地域に知らしめるよい機会となった。

海的环境学習マニュアル読本が完成し、関連機関へ配布を行った。クリヤーブック式とし、海に関連する資料をひとつのファイルにまとめることができるようにした。

生物多様性条約締結国会議が2010年に愛知・名古屋で開かれることとなり、関連イベントとして、COP10キャラバンセミナーを2009年2月11日に蒲郡市において開催した。内容は三河湾環境チャレンジの活動報告をメインとし、平成17年度から参加している竹島小学校の児童による「海からのメッセージ」の演出は、会場を盛大な拍手で覆った。2010年の本番に向け、さらに活動を広げていく必要がある。

事業成果物: (作成した報告書・印刷物・ビデオなどの名称、部数を記入して下さい。)

実行委員会の開催記録

海的环境学習支援の記録

・タイムスケジュール ・活動アルバム(CD) ・活動動画(CD)

海的环境学習会の記録

・新聞記事 ・活動アルバム(CD) ・アンケート結果

海的环境学習マニュアル読本

